

# 半日閑話

十五

和書門			
類	二五二一〇	函	九七
架	一六	冊	一六

内閣文庫			
和書	二五二一〇	函	二二
架	一六	冊	二二

内閣文庫			
番號	和	25210	
冊數	16	( 15 )	
函號	212	288	



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





半日閑話卷之五

目錄

秀於長壽事義經惟夫

肥田豊後守牧野大和守殿中

森中進

三枝結一助屋敷町人

小日向

新洲廣屋敷

白旗方野死

兄教

松平信隆

明治十一年

數井



信嘉院同々藏下奇蹟

紅葉山下法門出火

代有丁進く言

翻可貝板敷害

四谷千日谷進く言

宮極少くお阿ん通也若

和田衣也く夢死

内方鉄上序夢死

松下河内く徳子力召捕り盗賊有奇蹟奇

門奈西方く家来正進奇事

町人院意

針醫元哲物語能く事

如月右右衛門事

吉原八十八酒乱

松平伯耆守隱居放蕩

小室系方以外人小夢屋入差扣一件

而國橋巷説

下谷浪人水戸殿家来喧嘩

柳所密走一案

山田仙之助一件

薩摩半左衛門一件

曲園甲斐守娘上奔



青山長谷寺乱心者

麴所指三丁目町人辻盗ニ違事

下谷市勇様事并服病者事

古井鉄助様事

陸座より来りて者事

箱根若様事漏子乱心

赤城油揚屋女房様事

喝子表丈

山所古き街中乱心

相利浦努カヒタニ舟

同 為系上様付

青山宮様所方盗賊

乞食仕至















薩摩の戦に参りて、南門を破る。人武を在連破る。入る。

[illegible]











高家之或言世々の事や——助方万葉集よ云々云々  
 者や右者や甘後病に金や五所ありき——りやお年  
 要るに要る故さうな首うけ病——が此の玉歌  
 あそまづ例も漸くあへて是のよき——な之さう  
 と云國の勝れんり我道とまはれいあ——具好あり  
 出物病のり上とまはれさうな人——と云勝れり  
 到るにこれ作あ——服もさうな張あ——玉歌あり  
 例也——ぬと紙さうな——金と三所ありとけり是の  
 初例——はの金とまはれ例也——と云三所ありとけり  
 集也——宋とまはれ——も是とまはれと云無像とけり  
 是の集とまはれとけり——りはけり——と云んやと云はれ

一 花書は乃の比や下丁の町に在る一碑に序に後名を記し  
 事記に云はれりておととてそれとて  
 大和の朝書にや一高書に書ありしや一市中に懸し  
 高き一石ありて一石又て此高書に一石あり  
 あり高書に書ありて一石又て此高書に一石あり  
 一石ありて一石又て此高書に一石あり

一 形是地法也 今通群 告之 云者 松為 地 形 實 地 乃 松 木 氣



[illegible][illegible]



[illegible]

哲の咄——其、哲夫の三葉も少利帳より  
一、同年七月末の以、此上切交するに際、是より一、元河場——石名  
場、最、堀屋——と、是より石名場之用、え、是より古き界り、た、  
何より、石名場と名、知、わ、ん、埋、——と、石名場、の、屋、を、——由、何、れ、能、  
費、と、ん、之、年、を、利、——と、石名場と、知、せ、——と、あ、——と、有、——と、  
——と、若、り、の、石名場、と、り、之、と、名、也、

一因年山形に神尾豊後守徳貞公在降八十八云酒の上を  
 解し不期に有るをたふすの事なりが因年の此の時  
 是を在りしとてその事なり其所は酒を解し  
 一因年山形に神尾豊後守徳貞公在降八十八云酒の上を  
 解し不期に有るをたふすの事なりが因年の此の時  
 是を在りしとてその事なり其所は酒を解し











国立公文書館  
National Archives of Japan

[illegible]



とて極く書きたるに由一由之故仙の妻阿井の事  
研の衣迄書母も附居が是ハ之端に制一足端の事  
の義也之より所方母娘九歳く下下りて由由故  
一其の事一放落の由有之り而方之件事ハ公  
其外仙のい而隔村方の家来と評言と有之り  
評判之中ニ後日年二より仙の母母系降の病死ハ  
評定故ハ長く其年母娘とて妻に夫と同く  
故故も評定十三より一

其の事一放落の由有之り而方之件事ハ公  
其外仙のい而隔村方の家来と評言と有之り

一回年之年中後評判人支那ハ中後評判人支那ハ  
有故之より一其意重と有之り一二月評判人支那ハ  
如事評判人支那ハ

中後評判人支那ハ  
評判人支那ハ  
其の事一放落の由有之り而方之件事ハ公  
其外仙のい而隔村方の家来と評言と有之り  
評判之中ニ後日年二より仙の母母系降の病死ハ  
評定故ハ長く其年母娘とて妻に夫と同く  
故故も評定十三より一











[illegible]

一八月考のひ  
所懐の憂を野馬の象を板石の象を院跡  
よりよきなりし由物を元よりなりし由之

[illegible]







然し右藏を遣はせしむ

一 昔は浦賀より江戸までガゼ船を船浦賀の番に  
おはせし事ありしに、其時浦賀の番に  
具申す所ありしに、事務所より江戸まで船浦賀の番に  
外託し、浦賀の番に江戸まで船浦賀の番に  
一昨浦賀の番に江戸まで船浦賀の番に  
人づきしに、右藏より江戸まで船浦賀の番に  
所由

一 昨は、事々相列の事ありしに、又江戸の番に  
子年十二月、江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
旅社江戸の番に江戸まで船浦賀の番に

有る事ありしに、右藏より江戸まで船浦賀の番に  
切着し、浦賀の番に江戸まで船浦賀の番に  
右藏より江戸まで船浦賀の番に  
一 相違は、江戸の番に江戸まで船浦賀の番に

江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に  
江戸の番に江戸まで船浦賀の番に







